

日刊

産業新聞

Japan Metal Bulletin

2014年(平成26年)

3月5日(水)

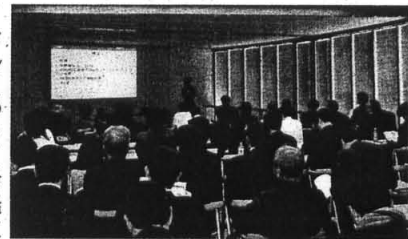
第18449号
Since 1936

オープン合同 分科会を開催

レアメタル資源
再生技術研究会

【各務原】レアメタル資源再生技術研究会(伊藤秀章会長)は4日、岐阜県各務原市の岐阜県テクノプラザでオープン合同分科会を開催した。60人を超える参加者が、レアメタル・レアアースのリサ

最新技術を解説



イクルについて活発な議論を交わした。午前は講演会が行われ、産業技術総合研究所・環境管理技術研究部門の田中幹也副研究

部門長が、ネオジム磁石リサイクルについて講演を行い、湿式法による金属リサイクルで溶媒抽出法の優位を指摘するとともに、「レアアース危機が一段落した今こそ、リサイクル研究をじっくりと進めるべき」との見解を示した。

日本原子力研究開発機構・原子力基礎工学部門・原子力化学ユニットの長縄弘親・環境化学研究グループリーダーが、原子力に用いる技術を応用した新しい溶媒抽出技術、エマルションフロー法について解説を行った。

午後には物質・材料研究機構の原田幸明特命研究員がビデオレターで、レアメタル(レアアース)に関する問題提起を行った。その後、各講師などのパネリストとともに「本音で語るレアメタル(レアアース)問題」と題したパネルディスカッションが行われた。

終了後にはシーエムシー技術開発のジスプロシウム分離精製実証装置と、大脇商店のネオジム磁石・リサイクルプラントを見学した。